

私の家のひな人形は、姉の作ったお内裏様と、おひな様だけでした。

あとはねん土か土で作った、犬や猿や猫や手などなかったもの、手がとれたもの、小さく細かいものがあつた。

二段に赤い布をひき、上の段にはお内裏様、下の段には色々な動物のひなを並べてみると、とてもおもしろいものでした。

庭に咲いていたももの枝を二本切つて一輪ざしにさして、ひなまつりの歌を皆で唄つた。友達と、はねつき、おじやめ、おはじき、竹べら、なわとび、あやとり、手まり等、いろんな遊びをしていました。

ひなあられは、母がいろりのバイタの火かげんをして、気長にこげつかないように、赤、白、青、草もちのあられを作ってくれました。

おひな様に、皿に盛ったひなあられをお供えしてから、食べながら遊びました。

吸坂あめの桶に入れてあるものを、おこしては口に入れ食べながら、おひな様を時々見ているは食べました。

いろいろでは母が大根、人参、蓮根、こんにゃく、しいたけ、あぶらげを大きな鍋にいっぱい、こんぶ、なんば等入れほうろく煮をしてくれました。家中に美味しいにおいがたちこめて、とてもうれしかった。夜は姉とトランプやかかるたをして遊びました。

牛乳を白酒にみたてて、家中でちよこに一杯ずつ飲んでから、母の作ってくれたほうろく鍋に舌づつみをうち、おかわりをして、まんぶくで風呂に行つてから寝ました。

これが私の子供の頃のひなまつりのたのしい一日でした。

今は、けんらん豪華なおひな様がいろいろ出回っていますが、子供頃は姉の作ったおひな様が最高でした。

ひなまつりとひなあられによせて、私の子
供の頃を思い出し、エッセイを思い出のまま
につづりました。

俳句

ひな祭り 老いてもいまだ 懐かしき
あやとりで 口いっぱいの ひなあられ

き
み
こ

